

### 社会情勢気使いつつも厳粛に挙行 西播教会 春之例大祭



西播教会長様

山々に、境内の木々の緑が柔らかに新しく芽吹き、輝き溢れる昭和の佳き日。いつもですと早朝より準備の役員さん方が「ええ天

気になりましたな。大祭日和。口々に参拝され、夫々のご奉仕に就かれ、大祭を迎えた陽気が広がる頃になっても、何とも静かな境内。

それでも、いつにも益して整え、お供え飾られた御神殿。しかし玄関にはマスク、消毒液が準備され、拝殿には、前席より見慣れた

い椅子が間隔を開けて並べられています。何をしても執行される祭典ですが、時の情勢を鑑み、割愛を余儀なくされ開祭されました。

その中でも、大阪本部教主様ご夫妻に、企画部長様が随員となられ早朝よりご来駕賜りました。

又、名古屋敬和会星野会

### 外出自粛制限の中祭典滞りなく執行 養老教会 春之例大祭



養老教会長様

新型コロナウイルスが世間を騒がせる中、当教会においても事前に何度も役員の方々と諮ったこの度の大祭、祭典は予定通り、直会は割愛させて頂くことになりました。前日には役員有志の方々のご奉仕により、皆様をお迎えする準備が整いました。

当日は行く春を惜しみながらも初夏のような爽やかな風が吹き、清々しく晴れ渡った四月二十六日、養老支部春之神恩感謝例大祭が、

本部長様ご夫妻、副本部長様、少権現職訓啓様をはじめ名古屋からは星野総代様ご家族を上げて、支部教信徒も参集い、大祭次第に則り、定刻の十時三十分開式されました。参列者には、アルコール消毒やマスク着用、一定間隔を開けての着席というご協力をいただき、外出自粛制限のおかげで、祭典の道路を走る車がまばらで騒音も少なく、厳粛に進められました。

祭主様の祭祝詞では日ごろの御神恩に感謝を申し上げられると共に、悪しき病(新型コロナウイルス)の早期終息を御祈願くださいました。また、本部長様より幣帛並びに幣帛祝詞を

賜り、この上ない御神徳に感謝申し上げられ、当教会の発展と教信徒各家の弥栄に加えて新型コロナウイルスを含めた様々の病から避けられるようにとの御祈願もいただきました。割愛することも考えられた神楽でしたが、この度の祭典に向けて修練を重ねたこともあり、副本部長様の応援をいただきつつ新宅の利佳さんと井内綾乃さんにより奉舞されました。

祭典後の祭主様のご挨拶では、マスクやアルコール消毒液を本部総代の名古屋敬和会、星野様に御供いただいた披露と御礼を申し上げられ、先日の初代教会長、の奥様と様の年祭の折に



神楽「吾妻胡蝶」が奉納された。

長ご家族にも参拝頂き、高濱総代典儀により参進、修

参列いただいた教父様が「世界中で猛威を振うウイルスも味噌汁を毎朝飲むことで感染しづらい身体作りが出来ると仰った、御教祖も日本人がタバコで悪くならないのは味噌汁を飲んでいるからだ」と仰ったそうです。加えて御神水を頂き大祭のご守護もあるの

と神様は仰います、大変なのはこの騒ぎが収まった後に待ち受ける厳しい経済状況、これに対して心構えを持ち、神様におすがりする、祝詞本の信仰生活にもあるように、「何事も神意の示現と心得て、思い過ごし、心配・悲観をせぬように致します」とあります、あるがままを受け入れしつかり

と信仰に励まれ自家成立に努めていただきますようにと仰いました。

祭典後本来であれば直会を催すところですが、社会情勢を鑑みて、御神酒を上げて頂いた後、鏡餅を切り分け、お下がりのお供えと共に、事前に大祭のお供えにと送って下さった海苔や「あおき」などお持ち帰り頂き、大祭はお開きとなりました。

自粛ムードでお出まし辛い状況の中、ご参拝の皆様ようこそお越し下さいました。次の秋の大祭がいつも通り挙行でき、また大勢の皆様と共に感謝と祈りの一日を過ごすことが出来るように心から願っております。

養老副教会長夫人  
古川奈央



奉舞された神楽「剣・鉾の舞」



発行所 本部 大阪本部 養生教大  
大阪府西區北堀江3丁目10番  
電話 06(6531)6722  
FAX 06(6531)6152  
© (非売品)

6月号

自家成立の  
根源は和にあり  
秩序の根源は  
神祖崇敬より

### 話 信仰生活を見つめ直す 一ピンチをチャンスに

皆様こんにちは。今日は五月一日。今上天皇が即位され、令和の御代に替わってから、ちょうど一年が経ちました。

世間はコロナウイルスの話題が尽きません。事態の収束は未だ時間が掛かりそうですが、大神様の御守護を頂いて、お互いに乗り切つて参りたいと思うところがあります。

この様な状況で、改めて感じますのは、何事もない日常を過ごさせて頂けるのはありがたいことだということですね。

朝起きて、学校・職場に行き、お出かけや買い物をして、安心して一日が終わるといことが如何にありがたいかを、世間の多くの皆さんも感じておられるかも知れません。

以前も申し上げましたが、

「当たり前」という言葉の反対が「有り難し」という言葉です。この言葉が口語に転じて「ありがたい」という言葉が生まれたのです。

日々の暮らしの中で、簡単に有り得ない、奇跡的なできごとがあれば、それが有り難いことなのです。

そして、この様な厳しい状況、社会情勢の中にありながらも、それぞれがしっかりと心の中に持つべきものこそ信仰です。

この様な時期に、日本の国民性、日本人らしさ、その根源はどこにあるのかというのを、それぞれが考えてみる機会になさっては良いかと思えます。

外出を避けて居られる方が多いかと存じますが、お家に居られる時間が増えたこの機会に、普段読まない書物を読んでみるのも良い

「当たり前」という言葉の「世界に目を向けますと、先日パリで、長期化する都市封鎖に労働者がしびれを切らし、暴動が起きました。又、南米ブラジルでも同様の事態が起きたそうです。お蔭様で、日本はその様な事は起きておりません。その日本人の我慢強さや、奥ゆかしさ、心のゆとりは神道に由来するのです。

私共の信仰する寶生教、まさに神道こそ、日本人の根源であり、アイデンティティと呼ばれる、民族性、国民性なのです。

扱、今日の産経新聞に、伊弉諾之尊が日向、現在の宮崎県で禊ぎをされたという内容の記事がありました。皆様が毎日奏上される「身曾貴之祓」の祝詞は、我々個人を祓い清めるための祝詞です。

祝詞は大半が「古事記」の内容が題材となつています。その中で、伊弉諾之尊が黄泉之國へ行き、その穢れを祓い清めるために禊ぎをされます。

その神話に登場する光景が祝詞に盛り込まれているのが「身曾貴之祓」という祝詞なのです。

因みに、伊弉諾之尊が禊ぎをされ、左目をすすいで現れた神が、天照皇大神。右目をすすいで現れた神が、月読之尊。そして鼻をすすいで現れた神が、素戔鳴尊であると云われております。

皆様が日々奏上される祝詞は、単なる唱えのことではなく、実際に神代の時代に神々がなされた出来事が元となつて完成し、現代にまで引き継がれているのです。

その祝詞を神様に奏上することで、神様の御心を揺り動かし、お徳が我々に降り注いで、身を清めて頂いたり、ご守護頂いたりするのでございます。

祭 並 月 (5月1日)

### 教会行事

六月 一日(月)	月並祭	午後七時
七日(日)	御本宮月並祭	午前十一時半
八日(月)	修行日	午前十一時、午後七時
九日(火)	修行日	午前十一時、午後七時
十一日(木)	和歌山地区敬和会	
十二日(金)	城北地区敬和会	
十四日(日)	米子地区敬和会	
十五日(月)	月並祭	午後七時
二十日(土)	西播教会修行日	
二二日(日)	養老教会修行日	
二五日(木)	修行日	午前十一時、午後七時
二七日(土)	名古屋地区敬和会	
二八日(日)	東京地区敬和会	
七月 一日(水)	月並祭	午後七時
二日(木)	宝生会(信楽CC)	
五日(日)	御本宮月並祭	午前十一時半
八日(水)	修行日	午前九時
九日(木)	修行日	午前十一時、午後七時
	教祖祭	午後七時